

<暮らしの夢から“かたのサイズ”をめざす像までの流れ>

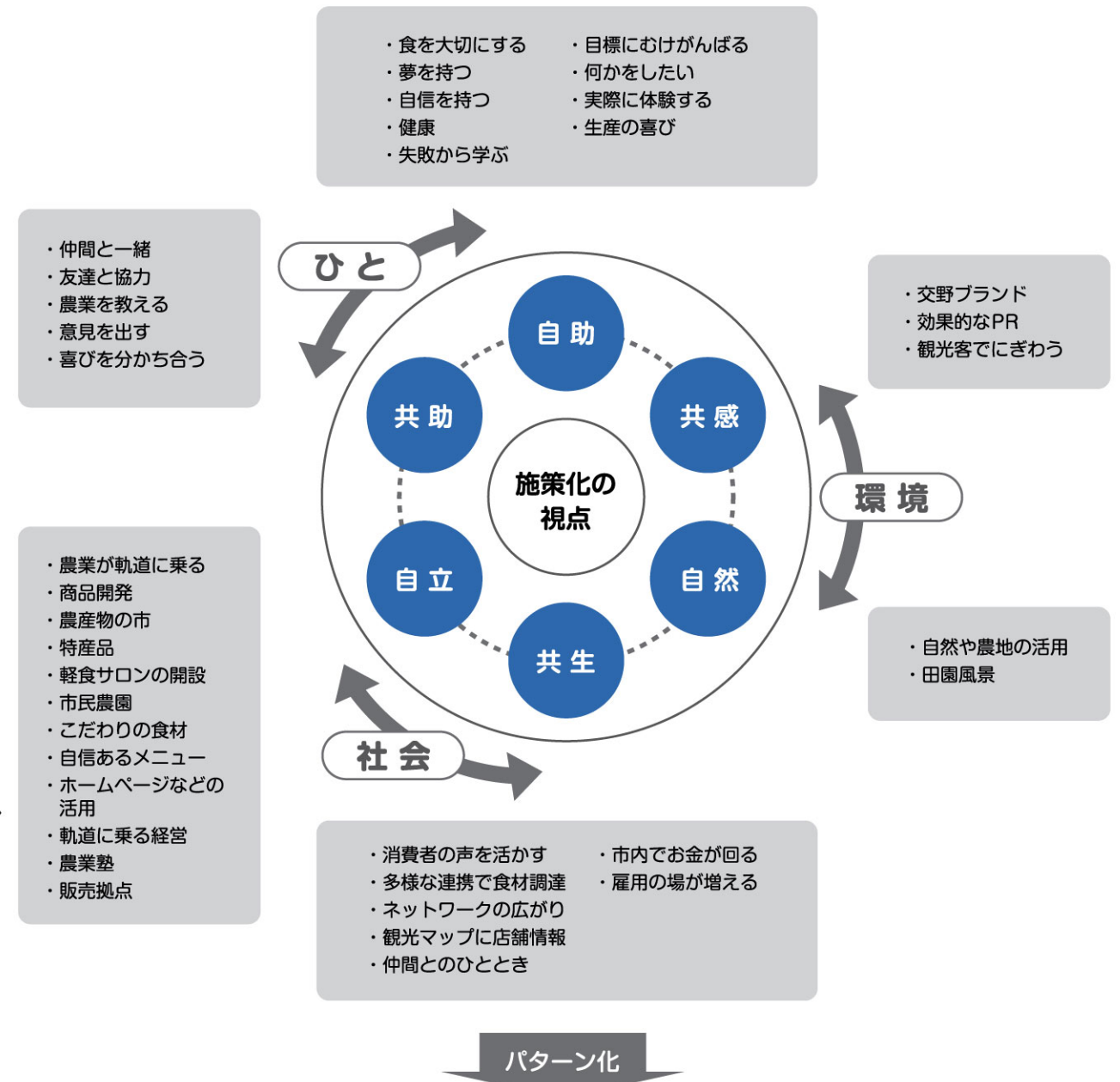
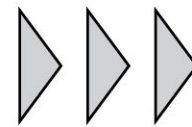
暮らしの夢

7. 農地・食文化を大切にしたい地産地消の暮らし

私の家では、交野市特産のお米や野菜を近くの市で購入している。消費者と農家と一緒に商品開発をする場にもでかけて、「こんなもの買いたい・食べたい」と意見をだしている。
市民が協力して農家の経営がうまくいき、結果的に農地が活用され、田園景観が守られていくといいなあと思っている。
(中年女性)

私は、昔から夢だった軽食サロンを仲間と一緒に開設した。地元の農家の方や市民農園をしている友達が食材を提供してくれる。そのつながりで、こだわりの食材を生産している人とのネットワークが広がり、メニューにも自信をもつことができるようになった。
ホームページとブログで店の紹介やお客さんとのやりとりを楽しんでいるが、最近、交野ブランドとなった商品の紹介もしている。お店を観光マップにも載せてもらい、少しずつ観光客の方にも利用してもらえるようになった。大阪南部や京都にもちよくちよく立ち寄ってくださる方がいる。経営も軌道にのりつつある。
(新規起業家)

まだ元気なうちに何かをしたいと思い、農家の人が農業を教えてくれる「交野農業塾」に入った。高校生までは田舎で暮らし、農業をみてきたが、するとみるとは大違いだと実感している。
育てた野菜が美味しく実るととても嬉しい。昔の仕事仲間や後輩を呼んで、それを肴に飲み会を開いたら、すっかりみんなの隠れ家ビアガーデンにされてしまった。
うまく収穫できないこともあるが、失敗すると「何故だろう」とまた研究意欲がわく。採算ベースにはなかなかのらないが、農業塾卒業生の中には、安定的に収穫できるようになった人もいますので、朝市出荷を目標に、がんばっている。
(早期退職した方)



No.	“かたのサイズ”をめざす像
2	体の中から健康でいたいので、食を大切にしている
4	運動を心がけ、健康が維持できるよう体力を養っている
6	趣味や生きがいをもち日々楽しく心が充実している
22	活動や資格取得など目的に合わせて多様な学びの場がある
52	地元の農産物が身近に売られ、食卓を彩っている
53	農とふれあう機会があり、農業が身近に感じられる
54	農業がまちの生業といえるほどに、みんなで支えている
55	交野ブランドを求めて、人が集まり、まちが潤っている
56	もったいないという思いで限りある資源を大切にしている
71	いろんな人が知恵を出し合って、新しいことが生まれている